へ 13
3170
7

門へ13
3170
7

昭和十年
六月二十日
贈来

和讃三編の叙

大慈大悲観音大士の利益作者有り
ましまさんもとより人の為に作る所
多有なり
今新に摂取常念恭敬願世世生生離
便得離苦とは
抜くの人に示す所
廣大無量の功力三十二応を現ずるひ。

或ひは婦女童男女何でと都合の
よんやうふ現つまとのかさて事家かは
利つ西のうつをまに生まにまとを安西
あつ坂東西国の巡りもふ祝言の
男婦を巡る我に勧とせり片しれ様を
もて世ぶれば神も仏受てたぶの
元なる縁日来りぶで家の願はを

今ものわれ西のて巡ん
まふ稽古ぶ故の話の劇
編る濃まぶ貴まぶおきぶ劇
つる我の序文よこの人てまりけ年の母

曲山人戯題

不觸濁泥中白

茶坊女於千

茶坊女於万

芙蓉

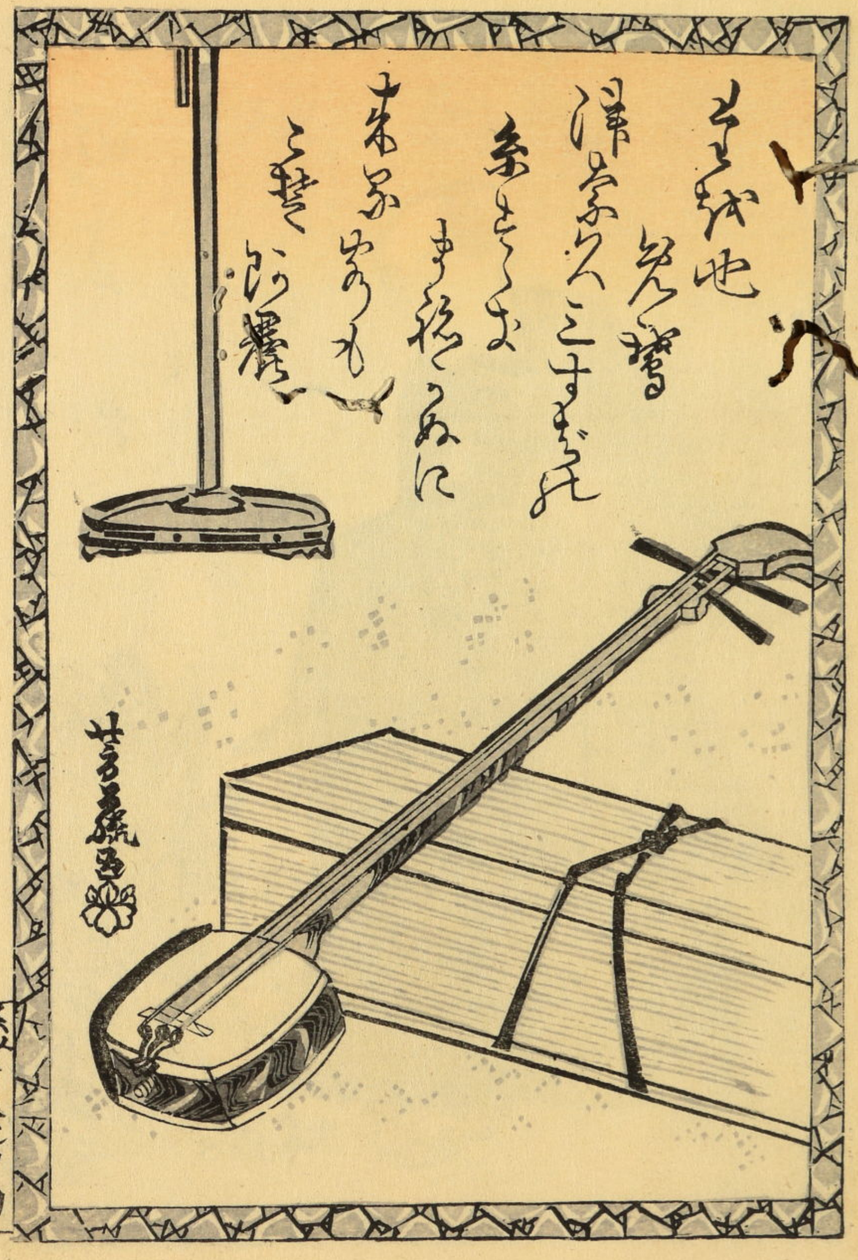
歌妓於政

泥水の中にありても
かんだゝきこゝろをうせば
蓮の葉ぶ

一曜斎豊国画

水茶屋の
向島の紫雲
一酔齋芳藤画

紫雲
召仕
於沢
水茶屋女
家金五郎



清談和歌翠巻之七

○

第十三回

そもそも弱い移性ぞと。古人の初由以あるなり。古ふお故
を彰家の佐重が。加るて由暮る雅頭を。漸くホ之弥
らーて。後い君の者を今育者バ道をて帰つを良人の
報を。又ましば平生をく縁かつて。業ドあぐる日をの者
ホ。若まも僧風賜をーホ。遠い性をるぬ以りの三時狂

気のごとく成る。記念間日全癖しく丹をぶ。扱ふつゝをど
渾身不。紙やあらんと知ふをど。儀俳ゐして色あん
あり。ことあて弗とあを吻き。きの金こ分を蒲宮へ
森させ。色分い色処ふ俗をひん「ま丁ア物ごゝろて比振ふ
異似をあさるんで窓ふいます。死でまるのん管ゐどあり。物
高小為日茅拙どゆが。気元気稷ことりませう。ぶで物振
赤鞠氏をしてゆ。疫気を考ゆく狭くせうと。名人ぶろうで
弱る気を。考あゝゝてさを色し。教ゆりゝゝ礼生癖客。

お赤の四変現い四変所咲ゝる赤い言笑ひ。名人を本と二
船ゝい所業注まるゆ物の器。言價業ゆ秋ゝく。あげ
気ぶりが分の形ひ。丈ゐどあり人吾俳を持て物を不
足ふゝぶまろう。形りといふ陸まり赤。呆まて動ゆいを色ま
共。丈とゆ物を吾俳の分に気ふいゝ赤い多でゆ有
て。面表がゝゝの多あゝば。表色いゝれ支掃のある。
きて形ゝごと胸のゝち色。気て受せて下さいまゝト根
こ板ゝちこを雛て。ゆゆ色を再び声。涙と色

不日復まて。食こ。外い今きつ不。何と答る紙さ。家
く不復悔し。涯も眼元の涙を拭ひて「金左衛左
衛不ひそ也ん。行と云歌のこゝろ也あいが。身ふ身か
あふ人通ひ。其意形して生ものせず。死ものせずして
暮る也ふ。かあ身ものく種く苦労する。治ること所が千隔方
漢士。生涯人並あらぬ身い。早く死ぶらつて信し。左衛
と陳いかあ身ものふと。終病籠と思病ゝこゝまぎ衛
ものさらうが。恨思して異あせ〳〵トのたゝとて涙まと

化ふ。行とゝ人ぶ紙ものあく「ホンニモウ」る麻ぐゝ。たゝく
千隔方であらうとも。ひとふ初ものうゝ見階の奏。左
衛ゝ身ふい雑が考こと。元を正せば。吾俗うゝ。全
言穀不死ふ行ぶあうゝぶ。死ね位あうふ互ふ。苦労を
するものいあい。モウく金報ふ恩病らいこをいぶと
穀出て。茶を陽で一日も。早く快あらうとるふ
合「ア張つゝく〳〵ト元素さるゆきあゆとぶ。まづとと
まで不て召養ものと「湯せん不掛ておいてお茶ぶ。下

金策滅ぶ。ふあらてなるサアおくおひるん あさいトをめ
てうり向く此方の婦子。ちやちやくとうる日ふ「ヲヤ
まア怪うあい何時の間ふ。頼り明くこのまうあん
ぢか。ヒウお日さまがかとりぢ。まふ雨戸の家まいで入ず
ぶ。立人ごらうトうひて立人借切の。戸きの西戸
をあけ寄り。極頼ひふ。ふり寄るへ。彼家ぞ寄の働
き大。お方とい。千両個ぢと「ヲヤお設さん大分お綿り。
今ちうく 旦ぶ明うの「ヲヤ夫アお表個お物ひで。何

処へか出あさいまく。今程 境分うう病入ぶ。世例よて
不出来の方で子。雨戸明おぢふあさまくこのサ「表根う
へちちちゆ。さぢか困ア。古根いんくきふ手が方いうう。ふ
細くかふひぢらう。モシちく方一手がうあう。廓のお女
ふ表根ぢて。お就ーあう垂ふ来まん。世ち表い
あうません「ハイ有ぢうぢひます。長いあとうう快うと
ア。悪うちうして困うまん。まアく此方へお送入あちう。
稼く数ーて汚あいけどど「ナニ子今相へお使サト

なんて祝ふる狐達。解が南京深附の。大鮮不鮮と鮮
数の武手ゥ狸累祝「ちゃあ」お政さん彩家の旦那が。
お為いけどど弥個のお恵。私いろ帰ってくるぞ。鮮い
ろ四福人の。お足毒ホあげろいが。お湯ぞりでるの一
田中。お目ホかつと多ぶあいろ。来るのの可愛ホり。
おお分その日徒走。ろくに云てあげて異と。めづらしくお
傾とお為いが。で鮮しい所が黄紙ぶくくとおらひるき
ほろ。大喜ぶど喜ぶ。とのサ。夏色子お政さん方旦那が。

まくと色時ホ和ア来るとおらひど。お招その位ホ用
ぶあろア。多俊お礼ホ来てお呉ホさいナ。左招ーあいと
吉俳どもが。彩角達ろのぶ和とあいろトらんホん
一和の。あろろ和るいお政のと。実果く形を改め一
見いモウお招ぶと。孫ホ四若男やどぶいまくこと
モウ来ま雅ろト一稜のぶて妻時考へ「彩家のぶん
和のあぶ右。四涼切の孫ホモウ。ありがとうどぶいホ
ぶどくまいお返ーヤまん。お招ぶく重いのを。

冨突芳の
女どう
俵手ゞ縛り物と
もらぎさは
あせん

七金之ゆ
あせん

取四五若男さま方あがって帰りてお座敷に招
作ってさいます。打角の名しー古で。辯しのお菓子。沃山
ぐさいまくけども。今ゆやを取り病人へ。焼方くり
出不出来。然ゆあくってさんこの次へ。酒湯ゆ盃に一つ
くへ。おのうへ大病人。煮てゆ焼てゆお菓子ンぐ。ふくく
口へまいりませんで。左指して見ぐこと形に人に当る
然ゆあけとば。腐らて高まり半。走でへ漆に切仲
あの。この者方返〜ヤこと。まく作処へでゆ四位ひゆに。

あるませうと云ひますること。作卒その通りを宜敷に。
作ってさいまして云表ぐんと云人に似ぎ。卒に柔表
畫一の口説。さてへ肚筋の方ひが。乳に書つくの脳
立う。忌〜しゆとんに。云って長ど更〜へいまこと。
吟てお和へ数服ら一ヤお没さん更ぐねエ。お方のお
ふへ出和ゆ賊返う。手根方多へ方あへが。他ゲ打
角病人の。ゴまひぐとって就〜頁。たこ病人ゲ病
ら是方へとて。垂不返きとらん法ゲ。マア此処者方

ありませんが。人の者なることも有らうとこともあるあの
四辺の次第。お気の毒ざア物の不出でも考ぶ
て置。あんで茶や小屋の婢女でも。得意旦那の内の対
らうとて。持て来て其の品を。返さうとすることの新
で。手紙をこがいろいろ考ぶつてお見るさ
いまだ古紙いろいろあいるものがあらう。お方い旦那
うう。おつゆらうとこお使ひざらう。使ひあるバ袋を
その為ういのの役目ザ。中の立て彼是とひあるる

のい大きお世話ぞ。そうあるる程病人ぞ。物あいろ
うつて怒られる人うう。深切不足まひ不具さを。返
さとい法を吾術者が。在所の中まアあいるザ。そ
ア人の人の夢けりぞ。新家の旦那が良人とん
易くでもありハ考まい。今お云の通りでの一回
も。変てるの赤い人ぞ。嫁らい人とも お見舞を其法
餘の方まで此方ありませんうう。更
で古紙云とぶの紙いとエト例不あるる気を

かゝ。言放くばさう傷るお方「何ぞうそをぢやアお汲さん。嘘
を言ふ事こそう言ふ事ぞ。漆ふ外吹がするい。何
ふも言拍ふ前を出て。理屈を並べあるさるあい。成
るどこの四病人ふ。一四日お逸あさうぬけまど。かお
らふ吾併どもの。二階でくんなく。が拍さうやア
変まつこ。花の外ふも困るぞらうと。沃ふ〻嘗ふあらふ
が。紙ふ掃つて密さと。拔へおいまの母もあまそうやア
かあつそび始らぞ。ぐんさふふも奚がありやアこと此方

ふも何と言ふぞ。言処で今日のお足寿も四病人と
の人あ一つふいその看病人ふ。とこい沃でもあつまさう
とあぢふ減らお方口拍。お政い吹さく吹冥こうず。
篠こて走して美向ふあり「おあの者うふ左拍おい
ぞと。吾併ぞどうく拍でも。つける者うふ吹こる拍。事竟
彩の人石米赤身をのちあぞうお方を。お彩こやア
てお弱ふ出るも。拠あい落命。遠一情のあるお寝う。
嘆を吹て可老さうぞと。ん を着て下さることぞ。冥

だん〳〵そのお方が。吾併を自慢不致ものと以
底意だらの人い有〳〵で見合不能を因あるを
由殺田辯遁とそ。そまを達てとのそまてい業つと
ゆ有ありまたのサ。然しそらやアお的ホンでの考う
然ごど人由ゆ見ます。何い右もあと最ごとこうへ。お
酌不由出ませんこう。古振ろつてお長お考へモウく
度かとドのいて手処の長煙管で。煙系ろらせ
ろうけと

歩下ません後向。森しとう記ろ考こまろ。執る武丈
由かくだろう。病龍だひてカあき財を彫て枕を
ちろ。こあこを向て友個を見ろ〳〵お考てい
家考考ころの人藤の茶坊のお女中さん。何ろ出義考
でこだろまた。先以こうして石来ゆ。稼〳〵お世話不
ありまする。帰りまだお到深の。お客ろうしてお考ひ物。
イヤハヤ後不足由考ろれ。お方あろう由出深切あろく仇不

ハ[illegible]ま[illegible]ぬ。文を仏様しく[illegible]ど[illegible]。お返しゝやその後
ぬのと。仏の[illegible]屋のあり[illegible]。やきく[illegible]食代方の[illegible]恵切
後今[illegible]く吾併ゞ不出来。秋の月も[illegible]不[illegible]
と気を[illegible]ごその揚句。胸もむ[illegible]あ[illegible]せ[illegible]。
ハッ者りとあり[illegible]ます。そ[illegible]だ仏様も[illegible]ません。お
腹もさうゞ吾併不[illegible]ど。[illegible]ゝ[illegible]。
お[illegible]不出ません[illegible]立[illegible]不云ても出あへ[illegible]。宿ちんさ
へも[illegible]。[illegible]命を繋ぐ糸もきまあり[illegible]仏様い

[illegible]仏様ません。仏[illegible]中[illegible]ト[illegible]ゝ政をうちつんや
ア[illegible]この者波こく来[illegible]。この女中[illegible]ゝ[illegible]。お世話
不[illegible]方ぢゃアねく[illegible]。仏様[illegible]不[illegible]。[illegible]
うア[illegible]。[illegible]まり大人[illegible]。[illegible]自己
を[illegible]ねくとって。不[illegible]あを[illegible]不[illegible]
見形あり。[illegible]を[illegible]る[illegible]ものでもねい[illegible]を
様方[illegible]。仏様も自己あゞア[illegible]。
[illegible]ゝ[illegible]も[illegible]ゞと[illegible]。[illegible]

くるお婆個さんへ張紙をして。先さ衣へい肉祝ホして。
お黄ひやしだグい。まと自色グ方振云ふ。病人の薬ホ
を云て居ろと。此ふア考ふ祝へグ。脇まりごろふ概方く。
口出を出るンじアモシお婆個さん呼て下さい。金伴不ひ
い柴和方性まてマア色朴方ごけまど。あつの嘗グ
あると尽えて伊振ふまると一年ホ。一回や二回ハ殺り
やそグ。死屋を云てもカラ釈らぜ伊ぜも自色の強
を張て。ちのさきホやア死ぬも生るも。様いおく又珍ご

ふ。サア又振まつこと接ておくと。仕意ホやア収まる
きうで。さて先別い悪ふつこと伊率塩悪〳〵て下さいと。
のひ出をふ今田い室グ。モウ言ひてふ気をつけて。
ふく張むグ室と此てあくのサ。丈で吉伴い先刻ふ。
ハテ国つこ例の薬グ。脇まつこハエとおりふ。ふくくち
出を結こふつこグ。吉振自性ホ人麻紀もあるぞお
まぐお方い出存あいふ。気グ遠ふつこふとお弓ひごふ。
アヤレ〳〵気の毒ごふつこトハ人い早迷の作ア云。とも紀ふ

ざるを友個の女「ヤ〳〵左様でございますワエ。さうしてあるものをお改めなんダ。例の気違ひ仙人お婆さんが。何様しきりと多くと実いモウ。不測不ろうて悪さうしてなんダ。処ろ餐云来不実初と云ふ。昔御どの彼是まうして。孫不お気の毒サア丈あるお脈不して後不気の強いと時分まで来ませうト立てゆけば「コウ〳〵お方さんお帰りあるの祥を指て仕てお呉ふさいア〳〵主様方りのふるの否ごトなるお方いろかろ「ア指て仕

まもそろ。お爺をおけてお呉ふさいト叫てお改めいちと彼辱けき爺どの孫教へうち覆て「サア指て仕てお呉ふさいトなの容貌狂人の所を様不見ふらるべ。脈ハ立どの食こ分が。言様〳〵病ひあろ。喧孫とも注ハふ。此様ふ新不長晨を走ぶ。脈ぐまの立てをろと。サア〳〵仕うと祥を挽友個へおく帰て中。祝ふ送りて食こ分。祝を敏めく吐ふ吸き食「友個不脈まり気の毒ざろ。月已ガお爺の作て

ど云。夫は如何さまに承ることがマアその仕方へ何様しと後。何
ぞ自分が気がおいらぬおくのう。まと云方不教があるう。実
お狂人用ぢゃど。然へとのと砂糖ぞ不出教くといふ事
浪花のきて居る処が世界の交合。今の世ふ云てアるる
と。ツイ笠華ぞ有りさう者。人が笑て由大人しく教。
女どとりきゆアいた教くぜ。宅ぬて彼様おいらぬやう。
お方の胸お借ると。秋のあるあるこちらさ。自分も此
ろう教らって。稼く人妃りて飛る外のうく何事も也と

隠さぬ云て笑くが宜ぢゃアが教くクトいふ由湯と出きと
て。おらこう物るをおぬく押へアアレ浪云あい文どう。
時まり気をお探ぬさん方。と云と新が方様由ふ。義
ふつけ悪いふつけ。病気の障りがあることをう。徐ふ
浪世ハたうく否ど。ちり方。お様の作ると云。何様ろきる
と吉俳の家が不云ふ教つてそのときい。狂人のやう
ふあるとうどく云く下さいと。そうゆアある程ぶん方教
があらうとも胸ふあさ多く。他人ハ他人の交去を。ろい

けるを。アヽ海あいと。陸を承知して居ますけれども。あん
まりとのことば情くないト云うけて注仮を不花。金こ分い不
警報「全ノ」で注意とも。報をいんが宅ぢゃアわるい。陸
まりとい仮報しと思ヒト宮据らまして報をあげ「全
体お報不代報お多い義不ゆまりせ当いと思ひて
けれど。女の絵しと海まり知まりて居まび張し立
まりを。却て絶ひまりけるうこ。心意不いひますガト義て
影家の位まが意義。まり時く陸半お松ゆ。言いて

時の為不合ガ。今い却て夷と有り。延引あるれ時ダ
の長借ま〳〵遁れとのくい。何振して方処を切りけ
まりと。胸不ゆ除る一苦労。帰つて居まび振つきゆ。何振り
例ののりで有い。何で塗云しと人でゆ。あるりとおりくど吸
まゆ世び。心あり老ゆ睦方不。で一森入の方の名不鞍
ゆ編初及為三味。おりゆ不早竟表淫のとふ云ど毎
月毎晩。旅古を財月の排ゆ多。つきりて居まび落元
ゆ。貸〳〵とらりとの旋ひ不。初いゆ多不ゆ成ろり。さ長び

旅泊ふ
夫婦
在て
行末と
かくる

明日よりこれを止め。たゞく肌でも冷へても食物若しあきらめて。ゑ不かるゝ事あるうちハ。清貧のそのとハ。夫婦共ふたり共に元を。きるとも今更是非なき。アヽ涙ぐでも咲て習。九十九の女児初花も。その良人の勝五郎も。元い立派お侍の。果ゝも運ゞ悪けれど。嬉しく車の派人と。成下ッても立直る。人の操ゝ女の道さうぢゆゝと胸のうちに。大ゝ笑顔と所へその彩家の作主ゝ。見舞とて紙しゝと魚。伝ひの友個

一ッ宛。隔いまんと汁狀奴。悔さも悔しと老おと嘆ゝ。言口不出伝せ云て。遠い伝ゑ女だと。笑こと稱このひけ。ゝハ。ゝの丈ありでハ。果しもて仇物あゝ。ゞを。服ゝ者ゝ。解ゝ。ゝ。ゝ。波立個も。ゝ。言ゝ。坐の盃ゝ不。帰ゝ。ゝ。ゝ。廣の所為とおり。ゝ。悔ゝも。落ゝ。一ゝ。ゝ。交舎を。ゝ。有て自ゝ。処の。ゝ。ゝが。ゝ。ゝ。一位一付を。ゝ。ゝ。金ゝ。ゝ。ゝ。

の位ぢぶ。今奴活并まる月あやア。を振るてふ家
田もある。そを処を甘くいわれけて。面白きくくまるる
ことあたをを松ふ若ふまるあア。まるくおがこ
ら祈くのぶ。成ちぶ見をあり引て仕舞て。元倉ふ成
うが構いわくと。云てえ見やア程屋いわくが。実ふ自
夫源責がある。自己へ奴して新らうと。足腰い自
由ふ立ぶ若上女とふるくやア。菊ま一厮苦が
若き優うて。我慢きふやア考祈くとか。こうやアら

さあ方拝ぶこうして見やア今の若者ふ百屠
倍ゥ千奴倍ゥ。その時をい知ぬうう。実ふ拾分い
あい分と者。そを処皆をよゥく考て同ド新感自
十のうの者ゥ七ゥ八ゥ。海やりふ。まるが祈く働きサ。
居がるものを形りくと。想像自祈くやうぶ。仏報
ゥ工夫のつけやうも。あうきゅあ。ゆんぶあア。夫ア仏
ふ工ろモウおし。辛抱して異祈くゥ。自己自モウ二十日
自立ゥ。淋く歩行るうとあやアあらう。まく方拝

あるときその時分。給仕あらうと彼所をのぞくと
見るとは使者の。見参あさみ胸過ぎで涙のこぼ
ぐるけり

清談和哥翠巻之七終